

夢アイデア2010

# 子ども育ててまち育て



01

現在を担うのは、今いるおとなたち

未来を担うのは、今いる子どもたち

そして

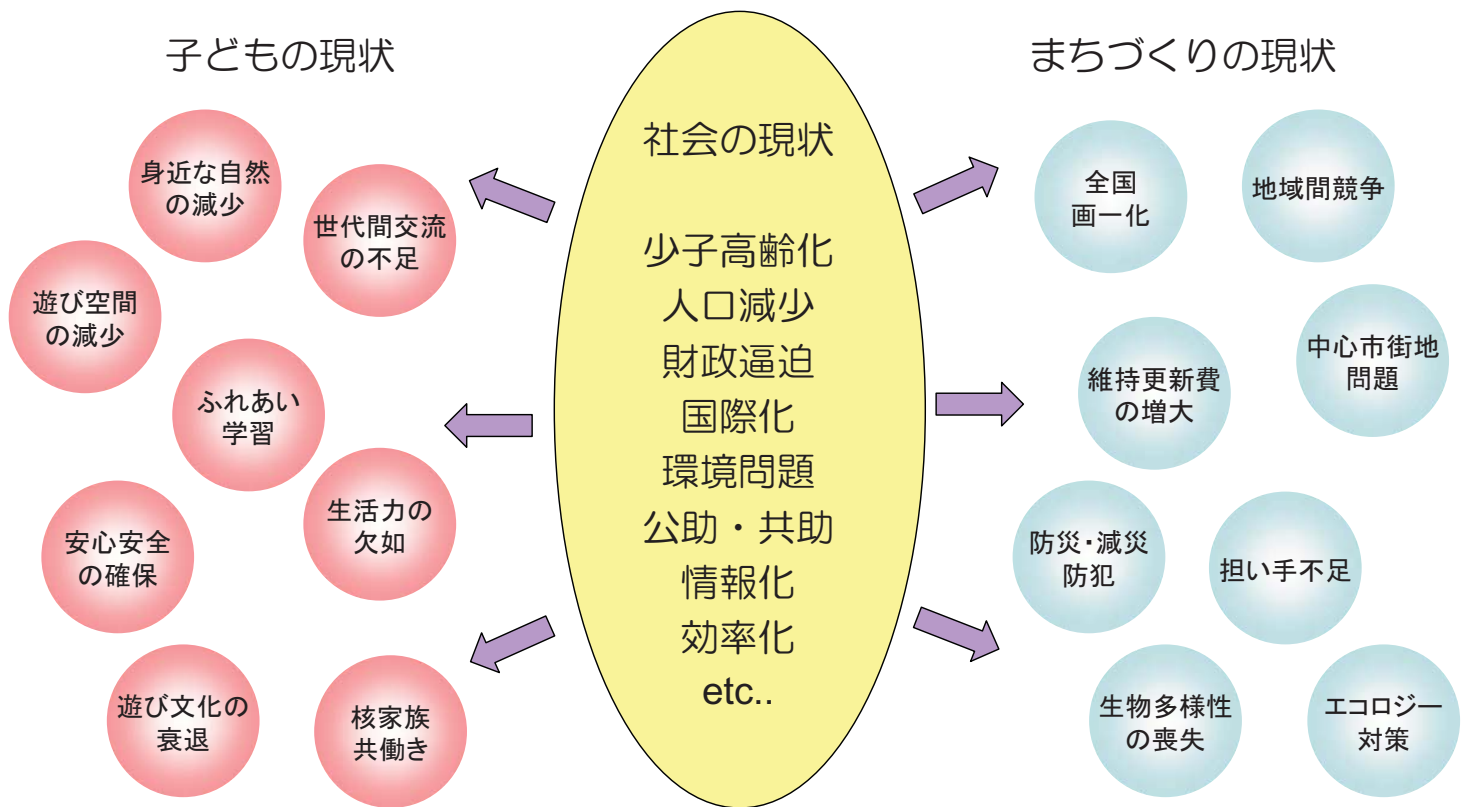
未来に対して、現在には責任がある

子どもに対して、大人には責任がある

そして

わたしたちにはできることがある





### ■ 子どもの望ましい能力



- ・ 物事を解決するためにどうすればいいか具体的に考える力
- ・ 人が人をつながり社会をつくる社会力の育成
- ・ 他人の気持ちや立場を理解できる人間、社会の一員としての自覚
- ・ 生きがいと、困難に立ち向かう生命力・郷土愛

### ■ 社会の問題点

- ・ 現在の経済活動による未来資源（人・自然・情報）が喪失
- ・ こどもと大人との直接的な交流の激減、社会的孤独、情報の不伝達
- ・ 命とふれあう身近な自然環境の喪失
- ・ 社会の役割分担が専門化し、総合的な発想や関係性が欠如



まちづくりの中にこどもたちも参画して、こどもたち（未来）の視点を交えて、みんなが責任をもってまちづくりに参加する提案

## ■ 「子ども育ててまち育て」のめあて

～望ましい子どもの育成を目標に都市形成  
子どもの教育とまちづくり育成を一緒に行う～

- 子どもにとって必要なものは、  
未来のまちづくりにとっても必要なもの
- 子ども育ては、まち全体でとりくむもの  
まちづくりは、子ども育てのフィールド
- 子どもには、大人が必要  
大人には、子どもが必要
- まちづくりは、思いやり  
子どもと大人の思いやりをカタチに



## ■ 子どもの成長への効果への期待（大人から子どもへ）

- ・ 実社会の問題点と課題への取り組み > 問題解決型の能力の成長
- ・ 体験から導く議論と多様な答え
- ・ 多種多様な人々との出会い、協力 > 交流による社会力の育成
- ・ 情報の活用と外部への発信
- ・ 社会のしくみと役割の理解・体験 > 地域への愛着の育成
- ・ 地域の歴史や人の関わりを学ぶ
- ・ 社会に関わる達成感と充実感 > 思いやりの心の醸成
- ・ 責任と義務の理解



## ■まちづくりへの効果への期待（子どもから大人へ）

### ◎継続的なまちづくり活動

- ・大人から子どもへ、まちづくりの継続的な活動と監視
- ・こどもの視点による安心安全なまちづくり

### ◎自助・共助の活性化

- ・子どもが動くと大人が動く、大人が動けばまちが動く
- ・子ども時代からの実践的なまちづくり体験

### ◎まちづくりへの新しい価値観の導入

- ・楽しさ、発見、感動などの価値
- ・交流そのものがまちづくりの価値

### ◎まちづくりへのやりがい

- ・子どもに感謝、誇り、評価されるお金以外の原動力
- ・未来をみる力、未来への責任を大人が身につける



## ■子どものまちづくりの参画アイデア

○子どもまちづくりプロポーザル

○子どもローカル遺産（子どもサンクチュアリ）

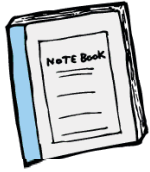
○みんなでまちづくり表彰

○まちづくり“つぶやき”ネットワーク

（ポイント）

- \* コンサルや身近な大人がまちづくりの先生へ（寺子屋のシステム）
- \* 責任の意識を高めて、視野の常識を拡げるステップを設ける
- \* 世代や環境・規模別の多種多様で選択可能な参画ツールを提供

## ■ 子どもまちづくりプロポーザル



地域のまちづくりや、インフラ整備について、子どもたちから視点的な技術提案をしてもらう。

「なぜその整備が必要なのか」「どのような人が関わっているのか」「整備するとどのような効果があるのか」などを子どもたちにわかるように説明を公開し、より効果が期待できるアイデアを募る。

### （めあてとポイント）

- ・新たに子ども層の利用者視点を導入することで、より身近で愛着のあるまちづくりを実現
- ・子どもたちもちゃんと理解できるまちづくりをすすめることが大切
- ・アイデアに対しては、きちんと評価結果を発表すること
- ・ネーミングライツなどの特典を付与する



## ■ こどもローカル遺産（子どもサンクチュアリ）



子どもたちにとって、ほんとうに大切なものや場所をまちの中から見つけ出して、大人の責任でそれを保全していく。

- ・子どもの遊び場、遊具、自然、小道、木、池など子どもがまちのなかでふれあうもの全てを対象として、「こどもローカル遺産」として地域で認定していく。（記録や歴史、都市伝説、人などの無形物も含む）
- ・特に子どもたちにとっておきの場所は、子どもサンクチュアリとして保全・運営していく。

### （めあてとポイント）

- ・大人の価値で決めつけず、子ども視線で地域の価値観の洗い出す
- ・こどもたちが認定し、大人との価値観を共有する場を設ける
- ・遺産保存場所（公民館や学校、インターネット）



## ■ みんなでまちづくり表彰

自分のまちづくりの成果を子どもたちが評価して、子ども達の視点でよかったところ、すばらしいと思ったものに対して子ども達が表彰する。

安心や楽しさ、自慢など、これまで指標化できなかったものを子ども達に評価してもらう

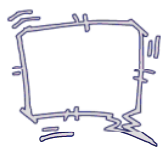
- 将来性（エコ・カタチ・楽しさ）
- 安全性（つかいやすさ・べんりさ・わかりやすさ・あんしんさ）
- 地域性（地域のじまん）



### （めあてとポイント）

- ・子どもがまちづくりや社会のしくみを理解する機会をつくる
- ・大人の仕事を子どもたちから認めてもらう機会をつくる
- ・まちづくりの事業だけでなく、関わった大人やチームも対象にする

## ■ まちづくり “つぶやき” ネットワーク



ツイッターやミクシィなどのインターネットツールを活かして、子どもたちからのまちづくりのアイデアや、提案、要望、問題点、危険箇所の報告などを随時収集する。

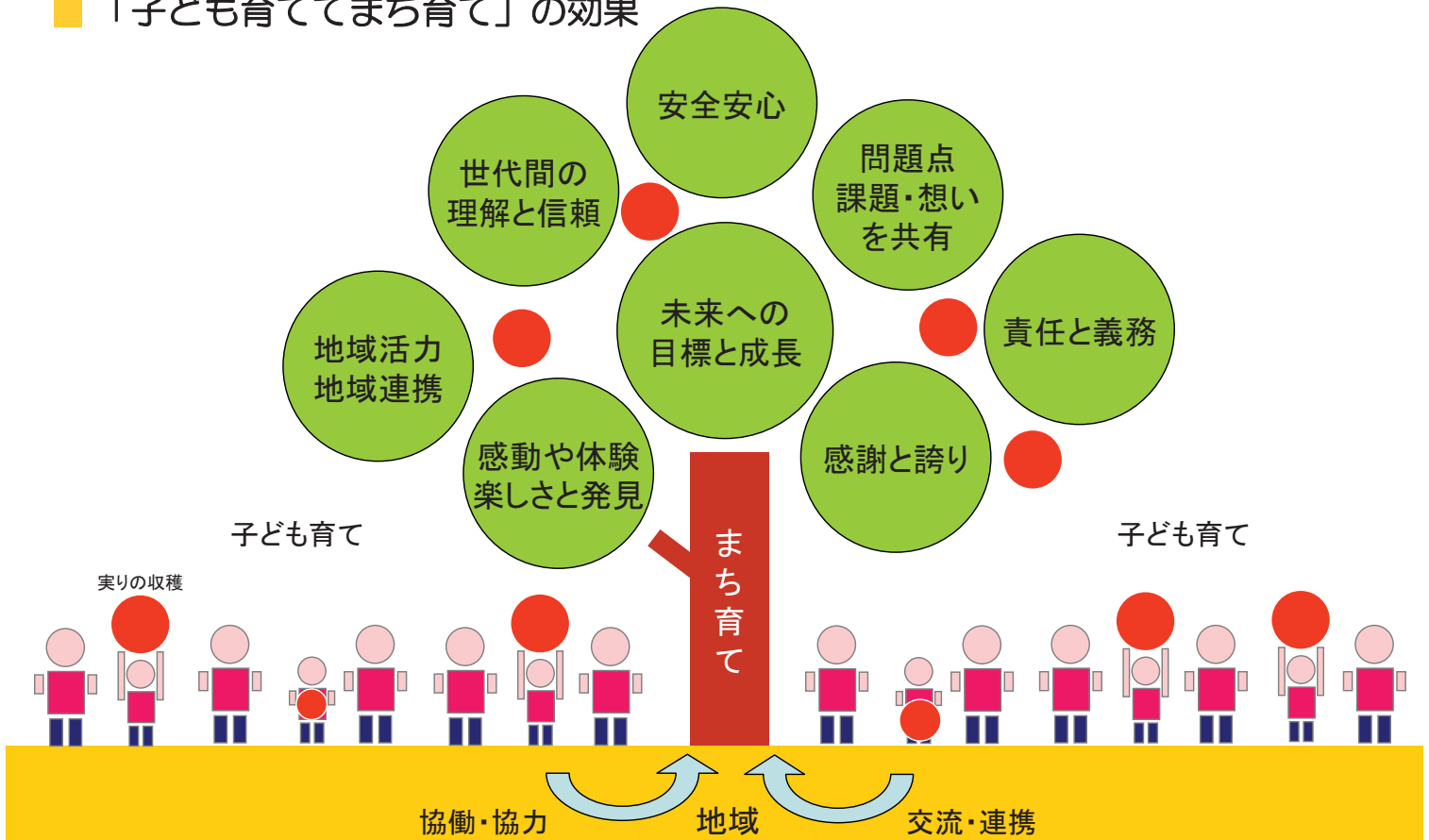
また、子ども達のネットワークから、まちづくりのPRや地域の情報を全国に発信・交流する。



### （めあてとポイント）

- ・気軽に思いついたことを自由に発信できるインターネットツールを活用して子ども達のまちづくりツールを提供
- ・プロポーザルやローカル遺産、まちづくり表彰などの運営もネットワークの中で展開を図る
- ・つぶやきの結果は、成果としてまとめてアーカイブ化、大人と共有する

## ■ 「子ども育ててまち育て」の効果



## ■ おわりに

今、社会経済情勢がとても不安定になっています。そのため、子ども達まで未来に対して不安をもち、世の中に暗い影を落としています。こうした中、どうかして、私たち大人は子ども達に明るい未来を手渡さなければいけない、ともがいてきました。

しかし、それは大人だけで解決するのは今の社会が複雑かつバラバラになってしまったのだと思います。今こそ、わたしたち大人にとっても、子どもたちの関わりや協力が必要ではないのかと考え、今回のアイデアにつながりました。

わたしはこれまで、こどもたちを対象にしたワークショップを通じて、こどもたちから多くのことを学びました。その中で、子どもというのは、大人の未熟な段階ではなく、子どもとして、実に多彩な能力をもっていました。その中の1つが、子ども達の〈つなげる力〉です。屈託なく仲間とつながりあい、遊びを通して地域とつながりました。そして周りの大人もつなげていくことができました。それは今の大人の社会も変えてくれると感じさせる力です。

子ども達の感謝の気持ちや、お互いの支え合う気持ちが結びついて、未来への価値を共有し、たくさんの方が気持ちや考えをだしながら協力しあえば、自分たちの手で社会を変えることができるのではないかと思います。

子ども育ててまち育て おわり